

[総会資料]

2026年度 理事長所信

一步をつなぎ、未来を築く



第67代理事長 坂本健人

【はじめに】

1951年に「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という強い覚悟のもと日本青年会議所が創設され、その8年後の1959年、滝川青年会議所は181番目のLOMとして誕生いたしました。以来66年にわたり、地域の先輩諸兄姉が「明るい豊かな社会の実現」という理念を掲げ、激動の時代の中で歩みを止めることなく、まちのため、人のために尽力されてきた歴史があります。その不断の努力に、心から敬意を表したいと思います。

私自身、この青年会議所に入会した当初は右も左も分からず、不安や戸惑いを抱えておりました。しかし、同じ志をもつ仲間と活動する中で、少しずつ「この組織の真の価値とは、人と人がつながり合い、互いに成長していくこと」にあると気づかされました。事業を経験するたびに、自分が地域の一員であることを強く実感し、まちの未来を考える責任感が芽生えていったのです。入会して初めて、自分がただの一個人ではなく、「この地域をつくる力の一部」であることを学ばせていただきました。

現代社会は大きな変革期を迎えています。国際社会では依然として対立や分断が深まり、国内に目を向ければ少子高齢化や人口減少、地方の過疎化、そして財政や地域経済の課題が山積しており、一方でAIやデジタル技術の発展により、新しい可能性も広がっています。このように複雑で先行きが見えにくい時代だからこそ、私たち青年が声を上げ、行動し、挑戦することに大きな意味があります。青年会議所はまさに「ひとつづくりを通じてまちをつくる」団体であり、この理念を胸に歩み続けなければなりません。

2026年度、滝川青年会議所は14名でのスタートとなります。決して大きな人数ではなく、入会から間もないメンバーが多数を占めておりますが、それこそが私たちの強みでもあります。固定観念にとらわれず、柔軟な発想と新しい感覚をもって運動できることは、これから時代に必要な力であります。経験の浅さは不安にもなりますが、それを補うのは「学ぶ姿勢」と「挑戦する勇気」です。本年度は、その二つを大切にしながら一年間を駆け抜けてまいります。

【会員拡大】

青年会議所の存在意義を地域に示すために、そして運動の力をより大きなものにするために、会員拡大は欠かすことのできない使命です。人数が多くれば多いほど運動の幅は広がり、社会に与える影響も大きなものとなります。しかし、単に数を増やすことが目的ではありません。理念や想いを共有できる仲間を迎えることこそが、真の拡大であると考えます。

私は2024年度、会員拡大会議の議長を務める機会をいただきました。その中で、会員拡大がどれほど難しいものかを痛感しました。声をかけてもなかなか理解を得られず、思うような成果が出ないこともあります。しかし一方で、その過程には大きな楽しさもありました。仲間と共に知恵を出し合い、一人でも多くの方にJCを知ってもらう挑戦を続ける中で、自分自身の成長を強く感じることができたからです。

拡大活動を行うためには、まず自分が青年会議所についてしっかりと学ばなければなりません。自分の言葉でJCの魅力や意義を語るためにには、理念を理解し、運動の価値を自分の中に落とし込む必要があります。そして、その学びを持って人に伝えるという行為そのものが、自らを大きく成長させてくれる機会となるのです。

私は、メンバー全員にこの経験をしてほしいと願っています。拡大は誰か一人の役割ではなく、組織全体で取り組むべき挑戦です。声をかけることに不安を感じる人もいるかもしれません、勇気を出して一步を踏み出した先には、自分自身の成長と新たな仲間との出会いがあります。その積み重ねがやがて組織を強くし、地域を動かす力になると信じています。

拡大のためには、まず私たち自身が「この組織に入って良かった」と胸を張れる運動を行うことが大前提です。その姿を地域の青年たちに伝え、共感を得られれば、新たな一步を踏み出す仲間が現れるはずです。声をかける勇気、紹介する行動、それら一つひとつが未来への種まきです。本年度は、拡大を組織全員の使命とし、誰もが当事者として行動できる雰囲気をつくってまいります。

【まちづくり】

滝川というまちは、私たちが生まれ育ち、働き、暮らす場所です。大都市のような華やかさはないかもしれません、地域の人々が互いを思いやり、支え合う温かな土壤があります。私たちの役割は、この魅力を掘り起こし、次世代に誇れるまちをつくることにあります。

まちづくりは、決して行政や一部の団体に任せるものではなく、地域に生きる私たち一人ひとりが担うものです。青年会議所の事業は、そのきっかけをつくることにこそ意味があります。たとえ小さな取り組みでも、市民が集い、語り合い、共に行動することができれば、その一歩が地域の未来を動かします。

本年度は、地域住民や行政と一緒にになって考え、地域の明るい未来のための事業を展開していきたいと考えています。子どもたちに夢を与える、大人たちに誇りを持たせるような運動を生み出すことで、滝川に暮らす喜びを実感できる場を提供します。そして、その運動の中心に青年会議所があることを示し、地域に必要とされる存在であり続けたいと考えます。

【名護交歓事業】

滝川青年会議所にとって、名護青年会議所との交歓事業は特別な存在です。この取り組みは、2025年に50周年を迎える記念式典が盛大に執り行われました。私自身もその節目の場に参加し、この事業がどのような想いから始まったのかを改めて知る機会をいただきました。

児童を沖縄に連れていくことが事業の中心に見えるかもしれません。しかし、その本質は「子どもたちが成長してくれること」がありました。名護の地での体験や出会いを通じて、児童たちがこれまでにない価値観を得て、仲間と支え合う大切さを学び、自らの未来を切り拓いていく。その成長の手段こそが、名護交歓事業だったのです。

単なる旅行や交流ではなく、「未来を担う子どもたちに成長の機会を与える」という強い使命感が脈々と受け継がれており、入会歴の浅いメンバーにも、この精神をしっかりと共有し、次の50年へとつなげていかなくてはなりません。

名護の仲間と共に築いてきた友情と信頼は、私たち自身にとっても大きな学びの源です。異なる環境や文化に触れることで、私たち自身もまた成長させてもらっています。本年度も、児童たちの未来への一歩を後押しするとともに、私たち自身もこの事業を通じて学びを得て、滝川のまちへ還元してまいります。

【総務委員会】

組織が円滑に運営されるためには、土台を支える総務の役割が欠かせません。総務委員会の担いは、表舞台に立つことは少ないかもしれませんのが、会議の準備や記録、情報の管理など、組織の根幹を守る大切な役割です。その働きがあるからこそ、全てのメンバーが安心して運動に打ち込むことができます。

本年度は、少数精銳の組織であるからこそ、総務委員会の重要性はさらに高まります。効率的で透明性のある運営を行い、メンバー全員が情報を共有しやすい環境を整えることが求められます。また、事務作業を単なる作業として終わらせるのではなく、メンバー一人ひとりが青年会議所の理念を再認識する機会とし、運動への理解を深める場にしていきたいと考えます。

総務委員会の丁寧な積み重ねが、組織全体の信頼と結束を生み出します。縁の下の力持ちとしての誇りを胸に、一年間、確実にこの役割を果たしてまいります。

【おわりに】

青年会議所の運動は決して楽なものではありません。時には大きな壁にぶつかり、悩み、迷うこともあるでしょう。しかし、その困難を共に乗り越える仲間がいることこそが、青年会議所の最大の魅力です。14名という少数であるからこそ、誰もが欠かせない存在であり、誰もが主役になれるのです。

本年度のスローガン「一歩をつなぎ、未来を築く」その言葉の通り、私たち一人ひとりの勇気ある一歩が、仲間へとつながり、やがて地域へと広がり、未来を築いていきます。小さな一歩でも構いません。全員で前へと進み続けることに意味があります。

この一年間、仲間と共に挑戦し、共に学び、共に成長できることを心から楽しみにしています。このまちを愛する仲間たちと共に、未来へと情熱をつなげてまいります。